

第8回アフリカの平和と安全に関するダカール国際フォーラム開会式

山田外務副大臣外務副大臣ステートメント

サル・セネガル共和国大統領閣下

御列席の皆様

第8回ダカール国際フォーラムの開会に際し、日本政府を代表してご挨拶申し上げます。はじめに、サル大統領をはじめとするセネガル政府の皆様による本フォーラムの開催に向けたご尽力に敬意を表します。また、日本が、第1回目以降継続してこの重要なフォーラムの開催を支援させていただいていることを誇りに思います。

日本は、1993年にTICADプロセスを立ち上げて以来、アフリカと共に歩んできました。本年8月、日本はAU議長であるサル大統領を共同議長に迎え、チュニジアにおいてTICAD8を開催しました。TICAD8では、民主主義の定着及び法の支配の推進、紛争予防及び平和構築、そしてコミュニティの基盤強化のための取組を一層促進していくことを表明しました。

今次フォーラムのテーマである「外生的ショック」はアフリカの角、サヘル地域などアフリカの様々な地域における平和と安定を脅しており、その対応においては、国際社会が一致団結する必要があります。ロシアによるウクライナ侵略への対応はその最たる例です。ロシアの行為がもたらす国際社会への悪影響は、広範かつ深刻であり、国連、国際法など我々の依って立つ基盤そのものが挑戦を受けています。アフリカでは食料安全保障確保が喫緊の課題であり、日本も、緊急的な食料支援とともに食料生産強化支援や農業人材育成に取り組んでいきます。

新型コロナをはじめとするパンデミックや感染症も、引き続き不安定化要因の一つです。日本はT I C A D 8において、アフリカ諸国におけるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成への完全なコミットメントとともに、ワクチン及び医薬品へのアクセス向上のための取組の継続と強化を表明しました。

また、気候変動もアフリカの平和と安定から切り離すことの出来ない課題です。11月にエジプトで開催されるCOP27に先立ち、日本は、T I C A D 8において「アフリカ・グリーン成長イニシアティブ」の立ち上げを表明しました。その一環として本年8月にはセネガルとの間で二国間クレジット制度（JCM）に関する協力覚書に署名したところです。

こうした「外生的ショック」に負けない強靱なアフリカ経済・社会を作るお手伝いをするため、日本は、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の一環として、インフラ開発等を通じた連結性強化やアフリカの域内統合に向けた取組を後押しするとともに、法の支配に基づく海洋秩序の維持・強化、テロ・海賊対策を含めた平和と安定の確保に引き続き取り組んでいく考えです。そうした観点から、今般、日本は、アジアとアフリカ、中東、欧州をつなぐ結節点を重視する考えから、アフリカの角担当大使を任命しました。

御列席の皆様、

日本は明年1月から2年間、国連安保理非常任理事国を務めます。12回目の任期となるその経験を存分に生かし、アフリカの平和と安全に係る諸課題への対応において、アフリカ諸国の皆様の声に耳を傾けながら、より大きな役割を果たしたいと考えています。また、国連憲章の理念と原則を守り、国連の信頼を回復するため、国連の機能強化は急務です。特に、安保理改革については、改革の実現に向けた行動をアフリカと共に開始したいと考えます。

日本とアフリカは、「共に成長するパートナー」です。そして、アフリカ自身が主導する持続的な発展の実現には、平和と安定に包括的に取り組むことが不可欠です。T I C A D 8の成果を実行に移し、アフリカの平和と安全のために協力すべく、具体的な行動に取り組もうではありませんか。

ありがとうございました。

(了)